

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902658	事業の開始年月日	平成17年5月1日
		指定年月日	平成17年5月1日
法人名	株式会社スマイル		
事業所名	スマイル住いる走水		
所在地	( 239-0811 ) 神奈川県横須賀市走水1-1-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名	
		宿泊定員 名	
		定員計 9 名	
		ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	平成30年1月3日	評価結果 市町村受理日	平成30年3月29日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

働く職員はご入居者の出来ていること(掃除・食器洗い・食事作りなど)をそっと見守り、必要な支援をします。  
行動を制限するのではなく、“どうされたいのか”「気持ちに寄り添うこと」「関わりを持つこと」を心がけています。  
また、地域の方々との関わりや社会との関わりも大切にしたいと考え町内会のお祭りや近隣小学校の行事などにもご入居者の方と一緒に参加しています。またホーム主催の行事(餅つき大会、納涼会、避難訓練など)にも多くの皆様にご参加いただいています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成30年1月26日	評価機関 評価決定日	平成30年3月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は京浜急行線「馬堀海岸」駅より、徒歩16分程の海岸沿いにあります。2階建の2階がグループホームで、1ユニット9名定員です。1階は同一法人運営のデイサービスです。事業所の目の前は東京湾が広がり、リビングからは遠くスカイツリーや海ほたる、富士山が望めます。

<優れている点>

認知症になってもその人らしさを尊重し、掃除や食器洗いなど利用者ができることを大切に、職員はそっと見守り、さりげなく手伝っています。利用者を「お客様」と表現し、尊敬の念を持って関わっています。事業所恒例の餅つきでは、近隣の人やデイサービス利用者など、多数の人々が集まり、家族の協力を得て餅つきを楽しみ、豚汁を味わっています。横須賀の花火大会の日は、事業所を開放し、家族、近隣の人々と花火を見ながら食事やお酒を楽しむなど、地域との交流や関わりを大切にしています。また、事業所は十数例の看取りを経験しています。全職員で勉強会をし、看取り後は振り返る時間も持っています。看取り後の家族から、「スタッフの方にお会いしたいのでこれからもよろしくお願いします(母の思い出の場所です)」とのメッセージをもらっています。亡くなった後も数家族と交流が続き、季節に合わせて絵画の交換に来所する家族もいます。

<工夫点>

談話、外出支援、楽器演奏など様々なボランティアを活用しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	スマイル住いる走水
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員皆で考えた事業所の運営理念に基づいて日々仕事に就いている。理念を考えた時から、新たに職員も増えているので再度理念の共有を図っていきたい。	職員は毎朝、朝礼時に企業理念、行動規範、事業所の理念を唱和しています。職員は利用者を「お客様」と表現し、人生の先輩として敬意を払っています。理念に基づいて、利用者が自分でできることを大切に、そっと見守りさりげなく手伝っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、催し物にもお客様、職員含めも積極的に参加している（避難訓練、お祭りなど）事業所の行事へ町内の方を招待させていただき開催もしている（餅つき、納涼祭）	事業所の餅つきでは、近所の人やデイサービス利用者などたくさんの人々が来て、つきたての餅や豚汁を味わっています。夏は家族や近隣に声をかけ、食事をしながら横須賀の花火を楽しんでいます。談話や歌、フラダンスなどのボランティアの来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に民生委員の方に参加していただき地域の情報が得られている。認知症や高齢者の方の現状についても話し合っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にて取組み状況について報告・相談をいろいろな意見をいただくことが出来ている。	運営推進会議は家族や民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員の他、毎週来訪する地域ボランティアも参加しています。事業所の活動報告の後、意見や地域の情報などをもらい、事業所の運営やサービス向上に役立てています。	運営推進会議は2ヶ月に1回、年6回開催が基本ですが、諸事情で開催できていません。今後は年間日時を決めておく、だめになった場合はずらすなどの工夫をして、年6回の開催が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営上の相談（お客様のご利用、運営推進会議の開催など連絡・相談をしている。	横須賀市の指導監査課とは、月に数回連絡を取って、相談をしたり、設備などの確認をしています。身体拘束についても細かく判断を仰いでいます。事業所のケアの取組みを伝えながら、センサーマットについても相談をして導入しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアには取り組んでいる。ミーティングにて勉強会の時間をとっているため、身体拘束の具体的な行為についても定期的に職員で理解する機会にしていく。	職員は利用者一人ひとりの実情を踏まえ、安全にケアするために話し合っています。転倒の恐れがある利用者には、ベッドの足もとに光センサーを設置したり、家具の角にクッションを取り付けたり、部屋の入り口にスロープをつけたりと工夫しています。リクライニング車いすを導入しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	横須賀市で実施する虐待防止の研修・講習などに職員が参加している。日常の言葉遣いなどによる拘束なども無いよう努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度について学ぶ機会、話し合う機会が必要と思うが学ぶ機会がうまく持てていない。今後実施していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はグループホームにお越しいただき、説明させていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体の取り組みとしてご家族様に向けてのアンケートを実施。（意見・要望の聞き取り）改善に向けて取り組んでいる。管理者・職員は面会時等のコミュニケーションを大切にしている。	2年に1回の家族アンケートは9割以上の回収率で、出た意見は集計し運営に反映しています。利用者の発した言葉が聞きたい、という意見には、記録に利用者の声を入れるよう書き方を変更しています。餅つきや納涼祭などの行事の時は家族に協力してもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する職員の意見や提案を聞く場としては、年1回の面談がある。(事業所所長実施) 毎月のミーティングでは議題を挙げてもらうようにしている。	職員面談は年2回あり、運営に関する意見や目標を聞いています。職員は、行事の時期ややり方、介助の仕方、食事の提案などミーティングなどで意見を出しています。管理者は職員の意見や提案を取り入れ、意見には必ず返事をするようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	左記の内容について、事業所所長・管理者による面談を実施している。 職場環境などについての意見は、所長や社員を含めどう対応していくか話し合いをして取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内については、介護技術研修も行っております。要望する事で何回でも実施される 外部研修についても横須賀市や市のグループホーム連絡協議会主催の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センターが主催している勉強会やケア会議に参加している。 情報交換を通じ、求められていることをケアで実践していく。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント調査の際、必ずご本人様にも話しを伺いどのような関わりが必要とされるか把握し、本人が話していた要望など聞いたことは全員が分かるように記録に残している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメント調査の段階で聞き取っていた不安なことなどについて現状を面会時などにお伝えする。 ご家族の方からの気付いたことなどもこちらから伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメント調査実施後、入居者判定会議を行い（職員参加）、必要な支援について話をしている。リハビリ、福祉用具の利用など。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員はご入居者の出来ていること（掃除・食器洗い・食事作り、洗濯物、ご趣味など）をそっと見守り、必要な支援をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	運営理念に掲げている。面会の際など職員の側から明るくコミュニケーションを図り関係づくりを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きたい場所があることや大切な繋がりを職員は理解し、支援するように心掛けている。 ご自宅へ同行し様子を伺ったり、お客様の日々の会話の中にも繋がりが保てるようしっかりとした情報でお話出来る様心がけています。	以前から通っていた生け花の教室に継続して通っている利用者や馴染みの美容室に行く利用者もいます。友達が訪ねて来たら、一緒にゆっくりと過ごせるように職員は心配りをしています。 アルバムを見ながら話をしたり、家族の協力で墓参りをしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士で関係が築けるような環境づくりを心掛けている。(廊下の椅子や畳など共有スペースの中にも少人数で話ができるような空間・場の提供)座席の配置も状況によって変更している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご退去となる場合でも、何かあればいつでもお話を伺いますということを伝えている。ご退去後も交流を続けてくださっているご家族がたくさんいます。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「気付いたこと」を何でも書き込める用紙があり、ご本人の言葉を書き込むようにしている。職員全員が目を通す。	職員は利用者の横に座って話しをゆっくり聞くように心がけています。利用者の表情や仕草などで、嫌がっていることや喜んでいることを推測しています。申し送りノートや日常の記録に利用者の発した言葉も書きこんで、思いや意向を推し量っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント調査で聞き取りが出来ていない情報について、職員が聞き取ることができた内容は連絡ノートに記入し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日、職員が記録している「生活の様子」や「気付いたこと」から現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を作成する時は、職員の意見を聞いている。ご家族の方にも説明・同意をいただいている。	ケアプランはカンファレンスを基に、職員で意見やアイデアを出し合い、家族の意見も取り入れ、計画作成担当者が3ヶ月に1回、現状に即したものを作成しています。モニタリングは毎月実施し、急変時は随時変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に日々の様子や食事量、バイタルの記載、気付いたことなどを記載している。出勤時に記録書を読んでから仕事に就く。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	福祉用具の貸与（エアマット等）など、個別で対応したものに対しても事業所で一定期間利用できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	できる限り多くの回数近隣への外出に勤めています。その中でご友人、お知り合い、地域の方との交流を増やしています。お花の教室へ出向かれるお客様もいます		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご入居の際、かかりつけ医についての意向を確認し、希望された方に対して往診医を依頼している。昔から馴染みの病院へかかっているかたもいます。	入居前からのかかりつけ医の継続は自由です。事業所の協力医やかかりつけ医専門外に受診の際は、状況に応じて職員が付き添っています。医師、訪問看護師、職員間で利用者の情報を共有するためのシートがあり、活用しています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回（毎週金曜日）、訪問看護を利用している。（医療連携体制） 連絡・相談・報告を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを作成。病院側へ提出をしている。ご家族様から情報をいただくことも多いが必要に応じて病院側へ連絡・相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合について、契約時に説明している。ご入居者の状況に合わせ随時ご家族の方と話し合いをする。終末期のあり方についても昨年度看取りケアを実施していることをご家族様や地域の民生委員の方へ説明。	家族と話し合い、意向や事業所の考え方を共有しています。看取りケアに入る時は、全職員で勉強会を開催し、チームで取り組んでいます。看取り後はカンファレンスをして振り返る時間を持っています。開設から10例を超す看取りの実績があります。	看取りによる契約の終了後も、元利用者家族の訪問や交流（数家族）が継続しています。今後も本人・家族にとって最善の最期を迎えられるよう、取り組みの継続が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎朝朝礼を行っており、その際に心肺蘇生法を復唱している。 急変時に備えて、迷わずに実践できるように。ホーム外ですが実践にて役立っています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の避難訓練に参加している。（今年度不参加） 避難訓練は定期的実施し、避難の方法を身につけるように取り組んでいます。	今年度は、7月に消防署の協力を得て、火災を想定した通報、避難訓練を行っています。津波については近隣の大学に避難することとしています。地域との協力体制については運営推進会議で話をしています。備蓄は法人主体で入れ替えを予定しています。	夜間想定を含む年2回の訓練の実施のほか、目の前が海という立地を踏まえ、津波に備えた具体的な訓練も期待されます。備蓄の入れ替え完了後は、リストなどで適切な管理も期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人全体で取り組んでいることとして「スマイルの誓い」がある。 全ての職員が敬う姿勢と丁寧な言葉遣いをしていくこと。	法人の「行動規範」や「スマイルの誓い」は高い倫理観、人格の尊重を謳っています。利用者を「お客様」とし、指示・命令的な言動の一切の排除など職員は実際の支援、言葉遣い、記録の取り方など常に利用者を敬う姿勢を根底に持った対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりのご入居者様にゆっくりと関わりを持つことを心掛けている。お話を伺う時間を大切にしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴日や時間などは決めずにその日希望される方や状況に応じて入浴をしている。  食事や起床時間・就寝時間についても同じ考えで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ズボンが嫌いな方はスカート、美容院に通ってパーマかける方がいました。お客様のお気持ちを取り入れた身嗜みを心がけています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	台所に立って出来る方、椅子に腰掛けながら食材を切る方などそれぞれの方に合わせて食事作りに取り組んでいます。	食材の下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなど、その人の力ややる気に合わせて関わってもらっています。食事には職員も同席し、話題を提供したり、さり気ない介助をしています。季節の行事食、イベント食、外食なども大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合わせて食事の盛り付けをしている。水分摂取量の把握をし、熱いお茶を好まれる方、ぬるま湯を好まれる方に合わせて準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	職員のケアが必要な方（誤嚥の危険など）は毎食後の口腔ケアをしている。週1回ご希望に応じて訪問歯科を利用していただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中ご利用の方、ほとんどがトイレでの排泄を行っている。ご自分でトイレへ行かれる方への支援は排泄の失敗された時に着替えを用意し手渡している。	排泄チェック表を活用しながら、利用者のパターンやリズムを把握し、トイレでの排泄を基本に個別に対応しています。心理的な要因も含むトイレの頻回がある場合にも、職員は利用者の行動や気持ちに寄り添い、夜間帯もトイレ誘導をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘傾向の方は多く、ヨーグルトや果物・水分摂取を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日や時間帯も決めていない。お一人で入浴をされる方については、見守りもにしてゆっくり入浴していただく。	毎日入浴の準備をし、利用者の意向を優先した支援をしています。一人で入浴の場合も、職員は脱衣室で見守っています。浴槽の湯は利用ごとに入れ替え、皆1番風呂を楽しんでいます。状況により、併設のデイサービスのリフト浴を利用することができます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	部屋のベッドで休むことや、昼で少し休むことなど身体の疲れなどみられる時には休んでいただくよう支援している。入眠前にお話を伺い気持ちを落ち着かせるなどしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員がいつでも見られるように、個別の服薬一覧表がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事が好きな方、裁縫が好きな方、ドライブが好きな方、コーラーが飲みたい方などに合わせた支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物へ行きたいという話がでた時にはその日に行けるように努めている。また、お墓参りなどの外出についてもご家族の方のご協力があり外出しています。	季節によって散歩が難しい場合は、事業所の駐車場のベンチで外気浴をするなど気分転換をしています。鎌倉、三溪園、城ヶ島など事業所のレクリエーション外出の際は、家族や地域ボランティアの協力を得て、車イス利用の人も外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な方にはお財布を持っていただき好きなものを買えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望がある時には、電話や手紙のやり取りができるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地良く過ごしていただけるように工夫を随所に行っています。 安全を確保しながら手の届く位置に物があること、季節を感じるものを置くことなど。	事業所は馬堀の海岸線沿いにあり、リビングから東京湾が一望できます。エアコン、空気清浄機、加湿器などを使用し、快適な環境維持に努めています。リビングの椅子以外に腰を降ろして寛ぐ畳コーナー、廊下のソファもあります。季節に応じた作品は利用者で作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下のソファや椅子、リビング以外にも腰を下ろして寛げるような環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みの家具や大切にしていたものは何でもお持ちいただくようにしています。過ごし易い環境が作れるよう壁掛けなどの設置もご協力させて頂いています	居室には籐のダンスや家族の写真、人形など本人が大切にしていた品々を持ち込んでいます。状況に応じて掃除や整理整頓などの支援をしています。居室出入口に簡単なスロープを付け、段差を解消するなど利用者の歩行力に合わせた対応をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員全員が情報を共有し、安全且つ自立した生活が送れるよう心がけています。		

平成29年度

## 目標達成計画

事業所名 スマイル住いる走水

作成日： 平成 30年3月29日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域の避難訓練に前年度参加できていない状況であった。	地域の避難訓練に参加していく。またホームの避難訓練も年2回は行っていたが定期的で開催していく。	地域の方に避難訓練がいつ行うのか？を確認し参加する。ホームの避難訓練は消防署にも立ち会って頂き火事だけでなく地震などを想定しての訓練も行う。	12ヶ月
2	8	成年後見人についてなど学ぶ機会がなく話し合いもできていない。	権利擁護・成年後見人などについて学ぶ機会を設ける。	研修会に参加し。参加した職員が資料の回覧や内容についての話し合いを行う場を作り学んでいく。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月